

207

207

(移動報告)

上げてくる。

April 6. ⑤ 移動命令報告 ⑤ 四月六日(月)

午後八時半頃、新助役の三厚巻来会、"Bad news
を申し上げます"との前投のフル一部人員の他の地兵
に移動の命令があらる旨を発表し、其の移動者の
姓名を讀み上げる。実の文字通のへき處の雷声と
も思へる。曰く、

宇井、福田、伊藤、石橋、松浦、井上、都、佐藤、笠岡、
厚田、中道、守長、小野、崎村、平山、篠目、近藤、
浜上、竹岡、車、車野、池谷、小山(敬)、坪井、境野、
小林、富永、大塚、岡崎、岡村、杉山、西野、田中、
加藤。

即ち小山、松島兄弟、角田、中津、及び山本等の諸君を
除く者の軍令は全部移動するであつて、其先は発表
される單に南方三晝夜の旅程距離とのみであり、
且今次移動のめぐり家族への通知は

Being moved don't write until hear from me と
電文をとも一定する旨の通達だ。

全員の突然驚愕は、実に名状し難く全く形容詞
の発見に困らん位である。吾人の受ける shock は
冷水と浴びせられん位には凡そ生温い言葉だ。いはば
誰れも言葉と発する事は出来なかつた。この時間の経過
するにつれて desperate の憤懣は猛烈な勢で爆発
するのであつた。抑も North Dakota か New Mexico か。
南方とあるは New Mexico であらう。吾人の不安を

208

伴々懐測は驚々と言語を絶するものがあった。
 各らは、爾来、卓と造り棚を設けて、起居に漸く
 便あるを得るに到ったのみならず、風土及び水にも慣
 れ且つは療舎を繞り諸種の設備は成り、他の
 療舎への往復に由る顔見知りと交友とも漸次加
 はって、幸キヤンが我々時中の収容所に充てられ
 るものと信じてゐただけ、他への移動は皆に停
 られぬかつたのである。随つて此日の報告は實に
 名状し難き一大シヨウでもあったのである。

我々荷物は本曜日に午迄に備へ検査の上、幸
 局の牛に渡せば目的地へ輸送される、乗車には、ほ
 んの遊魔或はヌアル其他身廻り品のみにて、検査
 は官給品の有無と検査するだけといふ、官給品
 は全部返却するものだが、Knife等は運搬途中に
 和の汽車には携帯と許さず、現金は全部舎長
 洞に充て、手許迄預け、其を一切記入の上、幸
 局へ手交すべしとの事だ。

不安の一夜と現の裡に過ぎたのである。

April 7日(火)

今日は一同稍々平靜を取り戻しに到つたものの、尚ほ
 不安の情は各員の顔色に濃厚の度を加へてゐる
 のは掩も難き事實だ。荷物の整備に於ける怯
 と極めて居る。移動者は概計 346 名であつて
 オレゴン州からは 25 名余の諸君の外に